

| | |
|------------------|---|
| 南城市立船越小学校 | 連絡先 TEL:098-949-7108 Eメール : funasho-kyoutou.city.nanjo.okinawa.jp |
|------------------|---|

1 実践事項 研究指定：自立支援教室（スマイル教室）の取組

「みんなちがってみんないい、どの子もみんなスマイルを」

2 実践内容

スマイル教室経営計画

(1) スマイル教室とは

市の【校内自立教室事業】の趣旨を踏まえ、南城市立船越小学校校内自立支援教室、通称「スマイル教室」の教室経営目的については以下の通りである。

「スマイル」は、所属学級・学年の支援計画のもと、不登校児童（登校しぶり含む）や教室に入れないなど、様々な課題を抱えている児童の状況に応じて集団生活適応、情緒の安定、基礎学力の補充、基礎生活習慣改善等のための相談・適切な指導を行う。

(2) 入室対象者

- ① 心理的要因等によって登校できない児童や入室（長時間も含む）が困難な児童。
- ② 学校適応を促進するため、「スマイル」での指導が望ましいと判定された児童。

(3) 入室条件

【児童】・本人に「スマイル」に通室する意思があること

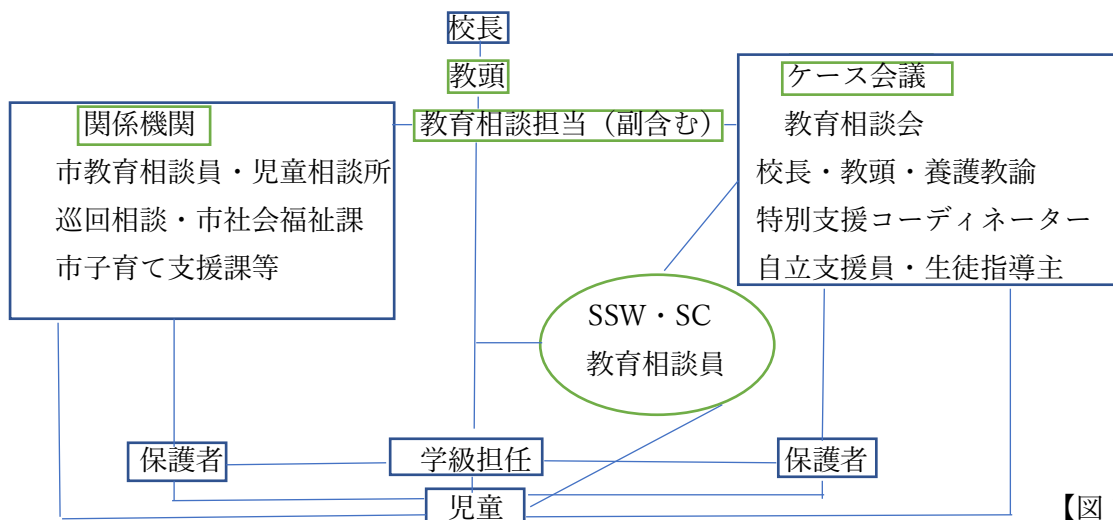
- ・自分なりの目標を持ち、目的に向かった活動に取り組むこと。
- ・行動する前に自分の思いを丁寧に伝えたり、先生方と相談、確認したりしながら行動できるようにする。

【保護者】・保護者に児童を「スマイル」に通室させる意思があること。

- ・学校や「スマイル」の運営を理解し、当該児童社会自立に向けた取り組み等に連携・協力できること。

【校内】・所属学級・学年は、「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」を作成し、組織的な支援体制【図1】をとる。

チーム学校（教育相談体制組織図）



【図1】

【自立支援員及び担当者（SSW、教育相談員含む）】

- ・入室申請に係る手続きを踏まえること。
- ・保護者との教育相談会による「スマイル」での過ごし方にて支援を行う。
- ・決定事項について変更等行う場合は、随時教育相談会を設け、臨機応変に対応を行う。

3 説明資料

(1) 支援の実際

本校（全校児童374名）において、不登校児童3名、登校しぶり傾向の児童10名、また、学級での集団活動が苦手な児童等々、数十名の児童がいる。そこで、その数名の児童がスマイル教室を活用している。

スマイル教室の経営計画のもと、児童の諸課題を改善し、学校復帰（学級復帰）等を支援し、社会的自立に資することを目的とするため、以下のような手順により改善を目指す。

(2) 支援方法

先の【図1】の組織図より、個別の支援計画や指導計画をもとに、ケース会議用指導計画【図2】を作成し、校内におけるケース会議【図3】を行う。そこで必要に応じて保護者も交えた教育相談会を計画していく。また、スマイル教室入室決定後に登校した際、保護者とのやり取りを【図4】にて連絡を行う。

個別の指導計画（ケース会議用）

作成日 R4年 月 日（ ）

| 年 組 | 性別 | 男 | 女 | 児童名 | （ ） | | |
|---------------|---------------------------|------------|----------------------|-----|-----|--|--|
| 長期目標 | | | | | | | |
| | 学習 (聞く、話す、読む、書く、計算推論等) | 行 動 | | | | | |
| | | 不注意、多動、衝動性 | コミュニケーション、対人関係、こだわり等 | | | | |
| 良いところ | | | | | | | |
| 気になるところ | | | | | | | |
| 現在行っている支援 | | | | | | | |
| 学校(学級、校内) | | | | | | | |
| 家庭、地域、関係機関 | | | | | | | |
| 短期目標 | | | | | | | |
| | 学習 (聞く、話す、読む、書く、計算推論等) | 行 動 | | | | | |
| | | 不注意、多動、衝動性 | コミュニケーション、対人関係、こだわり等 | | | | |
| 必要とされる具体的な手立て | | | | | | | |
| だれが | | | | | | | |
| いつから～いつ頃まで | | | | | | | |
| 評価 (最近の様子) | | | | | | | |
| ◎ ○ △ | | | | | | | |

※特別支援コーディネーターの先生へ提出してください。

【図2】

第1回ケース会議

- 日時 2022年4月22日(金) 学習評価の確認終了後～
- 場所 校長室
- 出席者 校長、教頭、コーディネーター、教育相談担当
自立支援員
- 準備物(資料) 個別の指導計画
- 内容
司会：特別支援教育コーディネーター
※出席者に配布された「個別の指導計画」の説明を介し会を進める。

- はじめのあいさつ 司会（コーディネーター）
- 対象生徒の現状及び実態
(不登校児童・登校しぶり児童・困り感のある児童等)
- 見立ての確認
- 現時点で達成可能な目標を考える 全員
- 手だてを話し合う 全員
- まとめ 司会
- おわりのあいさつ 司会

<座席>

校長

教育相談担当(養護)

自立支援

教頭

コーディネーター

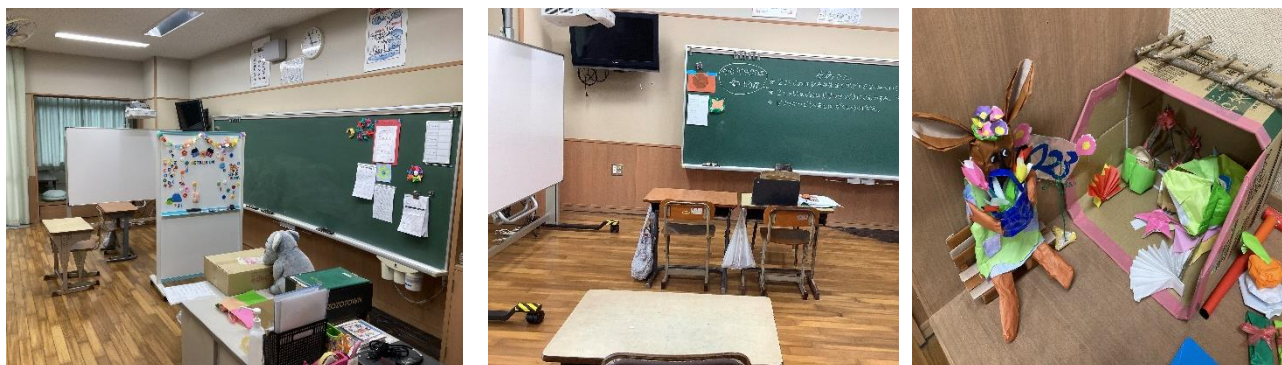
【図3】

| | | | | | | | |
|--------------------------------|---|--|--|----------|--|--|--|
| 令和4年 月 日 (水) <天気> 晴れ ・ くもり ・ 雨 | | | | | | | |
| 登校の様子 | | 昨夜の様子 | | 今朝の様子 | | | |
| 登校時間 | : | 就寝時間 | : | 起床時間 | : | | |
| 登校意欲 | <input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> まあまあ <input type="checkbox"/> ない | 睡眠 | <input type="checkbox"/> じゆうぶん <input type="checkbox"/> まあまあ <input type="checkbox"/> たりない | 朝食 | <input type="checkbox"/> ちゃんと食べた <input type="checkbox"/> 少し食べた <input type="checkbox"/> 食べてない | | |
| <学校への連絡> | | <下校後の予定> | | <家庭への連絡> | | | |
| | | <input type="checkbox"/> リッケ <input type="checkbox"/> みるく <input type="checkbox"/> () | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|------|------|------|------|------|
| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
| スマイルの時間 | ☺☺☺☺ | ☺☺☺☺ | ☺☺☺☺ | ☺☺☺☺ | ☺☺☺☺ |
| かがやきの時間 | ☺☺☺☺ | ☺☺☺☺ | ☺☺☺☺ | ☺☺☺☺ | ☺☺☺☺ |
| 休み時間 | ☺☺☺☺ | ☺☺☺☺ | ☺☺☺☺ | ☺☺☺☺ | ☺☺☺☺ |
| 明日 やりたいこと | | | | | |

【図4】

(3) 教室の様子



4 成果

(1) 支援室登校児童に対する支援

- ・GW明け頃から体調を崩し情緒学級で過ごす事が難しくなったため、自立支援教室を活用することとなり、2校時までは自立支援教室、3校時以降は児童デイに通うというリズムを整えていった。
- ・自立支援教室では工作や折り紙制作をし、本人の中で興味がある事は図書館の本から調べ学習することができた。
- ・体調も安定し継続的に登校出来るようになってきたため、2校時目は情緒学級で過ごす事にチャレンジしている。(N.Rさん)
- ・1学期にクラスに馴染めず校内を歩き回る・教師や生徒への他害行為・登校渋りもあり、2学期から自立支援教室を利用する事になった。
- ・学習は知的クラスの担任から課題のプリントを受け取り、時間内に仕上げることを目標に取り組んだ。
- ・処方されている薬の影響もあり1学期に比べ他害行動は減り教室で過ごす事も出来ると判断し現在は学級で対応することになった。(K.Kさん)
- ・1学期は登校できていたが、徐々に体調不良で欠席が増えていった。夏休みに保護者と教育相談を行い、2学期から自立支援教室を利用する事になった。
- ・自立支援教室には同じクラスの幸叶さんと一緒に利用することで学校に行くことができた。(S.Uさん)
- ・1学期はコロナ関連と足の骨折で欠席が多かった。夏休み期間中に保護者面談を行い、2学期から自立支援教室の利用となった。同じクラスの結衣さんも一緒に登校ができた。
- ・2学期も体調不良やコロナ関連の欠席は多いが、支援が途切れないよう登校支援も行いながら関係構築を図る。(K.Kさん)

- ・教室でじっと座っていることができず、友達とのトラブルも多かった。イライラしている時や気持ちが落ち着かない時は校内を一人歩きすることも多かったため、クールダウンできるまでは自立支援教室で対応する形となった。

- ・ゲームや折り紙などのやり取りをメインにコミュニケーションを図りながら支援を行った。またずっと教室で過ごすのではなくゲーム等をして気持ちが落ち着いたところに「あと〇分で教室に戻ろう」といった声掛けをし、時間のメリハリをつけることを意識して行った。(I.Tさん)

(2) 不登校児童生徒に対する支援

- ・保護者との教育相談を行い、本人の体調を考慮しまずは訪問支援から始め、そこから登校へ切り替えた際には4校時から5校時まで過ごすといった短い時間からスタートした。今後も段階的にステップを踏みながら支援に取り組んでいく。(S.Yさん・K.Kさん)

(3) 保護者支援・関係機関との連携

- ・定期教育相談会を週1回開催し、本人の体調の変化や学校での過ごし方について話し合い共通理解を深めていった。SSWにも毎週参加してもらい、家庭での生活環境も聞き取りした上で家庭支援も視野に入れた関わり方を進めていく。(N.Rさん)

- ・教育相談会では教育相談員にも参加してもらい保護者と児童のかかわり方についてアセスメントをし、本人の学校に対する不安感から体調を崩すといった傾向が見られたため、SSWの活用方法や医療機関への受診を提示した。また保護者も子どもに対しどのような対応していいか模索しており、親子が抱える不安や課題を一緒に考え取り除いていけるよう学校も協力・連携しながら支援していくことを伝えた。(S.Yさん)

- ・教育相談会を開き、1学期は登校できない日が続いていたため、2学期はどういった支援の方向性で進めていくかの共通確認を行った。本人が無理なく学校へ通えるようにまずは短い時間からの登校を促し、段階的に時間を延ばしていくような登校を提案した。連続してお休みが続いたときは、家庭訪問をするなど関係性を築いていった。(K.Kさん)

- ・校内でチーム支援を形成し、琥太郎さんが過ごしやすいような環境づくりを行い、関係職員で見守り・サポートを行った。教育相談会では放デイにも参加してもらい、琥太郎さんの将来を見据え、療育の面で児童デイでもSST強化に取り組んでもらうことをお願いした。

- ・本人の学校での困り感に対し児童デイと家庭でも聞き取りをし、対応については三者で協力・連携を取りながら進めていく。(K.Kさん)

- ・1学期の登校渋りから保護者面談を定期的に行い、現在は毎日学校へ来ることができる。

保護者の養育についての考えや方針を聞き取り、学校と放デイが連携して本人のニーズに沿った支援を行っていった。(M.Nさん)

5 課題

- ・今年度のチーム学校としての体制を継続し、職員間の連携や、関係機関との情報共有も密にしながら支援体制を円滑に進めていき、今後も組織化したケース会議→教育相談会を図り、自立支援学級への関わりを確立させる。

- ・家庭状況を把握した上で保護者の思いも受け止めつつ、本人の心情や体調を考慮しながらラポール形成を進めていく。

